

全盲ろう者で東大教授

JJ1SXA/池

全盲ろう者として、日本で初めて大学へ入学(東京都立大学人文学部)、金沢大学教育学部助教授、東京大学先端科学技術研究センター准教授を経て東京大学先端科学技術研究センター教授となった福島智氏。

生後5ヶ月で眼病を患い3歳で右目、9歳で左目を失明する、18歳の時に特発性難聴で失聴し全盲ろう者になる、そのため、18歳までの音の記憶が残っており、自分の声を聴くことはできないが、よどみなく口で発話する事ができる。

実際、講義や講演会でも発声して話しているそうだ、神戸出身のため日常生活では関西弁を話す、また、ピアノの演奏も行うようです。

ヘレンケラーも顔負けするような、こんな超人を育てた母・令子氏は、会話とコミュニケーションをはかるため、「指点字」を考案した。

「指点字」は、目も耳も不自由な人とのコミュニケーションのために、点字タイプライターのキーの配置をそのまま人の指に当てはめ、手と手で直接行う会話法だ。

6つの点で構成される点字の組み合わせを、左右の「人差し指・中指・薬指」で相手の指を「トン トン」とたたいて言葉を伝えます、道具も使わず、慣れるとかなりの速さで会話ができ、指と指との触れ合いで心の通った情報のやりとりができるようです。

ろう者は、手話でコミュニケーションを図る、速度は、健常者の会話とほとんど同じリアルタイムだ、私も十数年前に、立川市が行っていた手話教室で少し学んだが、ものにならないうちに止めてしまった、今は、ほとんどを忘れてしまった。

コールサインを忘れてしまったが、CWで出始めの頃、コンテストで良くつながった、当時早稲田の大学院生だったブラインドハムにQSLカードに、点字タイプライターがあるわけでは無いが、ちょこっとした挨拶文を、点字で書いて送るため、少し点字のルールを勉強したが、そんなのもすっかり忘れた。

CWでしかQSOしなかったので、コンテストの記録をどのように処理しているか聞かずじまいだが、今でも疑問は残ったままだ、早稲田の大学院生ということや、ブラインドハムであることは、QSLカードで知っただが…

話は戻るが、福島智氏は、母の努力も大変だったでしょうが、本人の努力も大変なものだったでしょう、この母にして、この子あります。

それに比べると、私は、幸いにも何の障害も無いのに全く努力などという言葉とは無関係に人生をのんびんだらりと過ごしてきたんだなあと反省だ、今更反省しても遅いが、残り少なくなった人生、とりあえず悔いの無いような生活を目標に過ごそう、加齢に伴い耳が遠くなったが、補聴器で十分カバーできる、贅沢を言ってはいけないのだ。

2022年11月4日、福島令子さん・智さん親子の軌跡を描いた映画「桜色の風が吹く」が公開されました。
(2022年11月記)

私のコールサイン、JJ1SXA(大文字)を指文字で表した



英字は、「外字符」を前置

大文字は、「大文字」を前置

数字は、「数符」を前置

英字「a」、数字「1」は、前置符が無ければ、ひらがな「あ」と同じ

学んだ手話のほとんどは忘れたが、自分の名前(池・いけ)の手話表現と指文字での表現は覚えている。

散々、自己紹介(名前・住所・年齢)の練習はやらされたからなあ〜。hi